文部科学省

平成29年度
全国学力・学習状況調査

本調査は，文部科学省が，学校の設置管理者等（教育委員会，学校法人等）の協力を得て実施するものです。

本体調査

調査実施日：4月18日（火）

調査の目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図る

◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

◇そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

調査対象

国・公・私立学校の小学校第６学年，中学校第３学年　原則として全児童生徒

調査内容

①教科に関する調査（国語，算数・数学）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
●身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ●実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など	●知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ●様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 など

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査 （例）国語の勉強は好きですか，授業の内容はどの程度分かりますか，一日にテレビ等を見る時間，携帯電話等の使用時間，読書時間，勉強時間の状況　など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 （例）学力向上に向けた取組，指導方法の工夫，教育の情報化，教員研修，家庭・地域との連携の状況　など

時間割

◎小学校（児童質問紙は，3時限目終了後以降に，各学校の状況に応じて実施。）

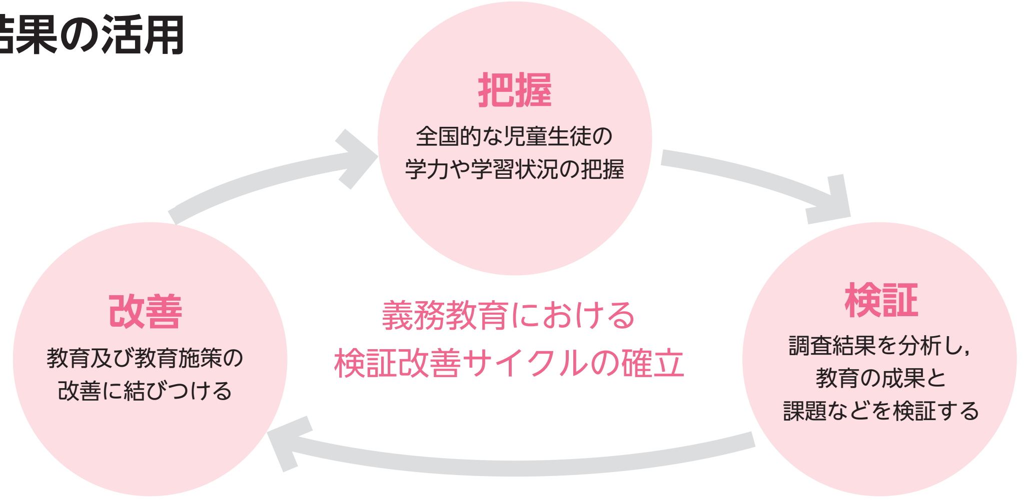
1時限目	2時限目	3時限目	
国語A（20分），算数A（20分）	国語B（40分）	算数B（40分）	児童質問紙（20～40分程度）

◎中学校（生徒質問紙は，4時限目終了後以降に，各学校の状況に応じて実施。）

1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	
国語A（45分）	国語B（45分）	数学A（45分）	数学B（45分）	生徒質問紙（20～45分程度）

（参照：文部科学省HP）http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm

調査結果の活用



国	教育の改善に向けた全国的な取組を推進	(例) 学習指導要領の改訂，各種施策の検証・改善，教員の配置等への支援，教育委員会や学校における改善の取組への支援　など
教育委員会	域内の教育の改善に向けた取組を推進	(例) 教員の配置等の工夫，教員研修の充実，教育指導等の改善のための資料の作成，保護者や地域と連携した取組　など
学校	個々の児童生徒の課題に応じた教育指導の改善に向けた取組を推進	(例) 課題を踏まえた授業改善の取組，校内研修の充実，家庭における学習習慣や生活習慣の確立に関する保護者への働きかけ，放課後等における補充学習の実施　など

◎全国学力・学習状況調査を活用するための参考資料等

■全国学力・学習状況調査解説資料

調査の実施後，各教育委員会や学校が速やかに児童生徒の学力や学習の状況，課題等を把握するとともに，それらを踏まえて調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実等に取り組む際に役立てることができるように作成したもの。

■全国学力・学習状況調査報告書

調査結果を公表するとともに，調査結果を踏まえて学習指導の改善・充実を図る際に役立てることができるように作成したもの。各問題について，解答類型と反応率，分析結果と課題，学習指導の改善・充実を図る際のポイント等を記述。

■授業アイディア例

各学校において，今後の教育指導や児童生徒の学習状況の改善等に活用できるようにするため，全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて，授業の改善・充実を図る際の参考となるよう，授業のアイディアの一例を示すもの。

■全国学力・学習状況調査の４年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ

平成19～22年度の全国学力･学習状況調査の結果を分析し，とりまとめた資料。

（概要）

- 各教科の領域等ごとに，児童生徒の「成果」と「課題」を整理
- 特に「課題」については，児童生徒一人一人の学習内容の着実な定着を目指して，その解決に向けた詳細な分析を行い，学習指導の改善・充実の参考となるポイント等を記載

■全国学力・学習状況調査の結果を活用した実践研究の成果報告書

調査結果から明らかになった課題に対して，教育委員会，学校等が連携しながら学校の教育活動等の改善に取り組んだ実践研究の概略等を掲載した報告書。

■全国学力・学習状況調査の結果を用いた追加分析

国や教育委員会，学校等の教育活動や，教育施策の一層の改善を図るため，大学等の研究機関の専門的な知見を活用し，高度な分析・検証を行った調査研究の報告書。

（分析例）

- 家庭の社会経済的背景と学力の関係に関する調査研究
- 良好な結果を示した教育委員会・学校における教育施策・教育指導等の特徴に関する調査研究

これらの資料は，
文部科学省 HP
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm
国立教育政策研究所 HP
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html
に掲載されています。

問題例：平成28年度全国学力・学習状況調査より

全問題については，（http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html）を参照。

小学校・算数B（平成28年度）　日常生活の事象の数学的な解釈と根拠の説明（メダルづくり）

3

ともみさんの学校では，小学校に入学する前の子どもたちを招待して学習発表会を行います。子どもたちは，24 人来る予定です。学習発表会では，来る予定の子どもたち全員に，メダルを作ってわたすことになっています。

1 人分のメダルの材料は，次のとおりです。

1 人分のメダルの材料
・80 cm のリボン
・円の形に切った厚紙

先生は 2000 cm のリボンと，縦が 39 cm，横が 54 cm の長方形の厚紙を用意しています。ともみさん，はるおさん，あかねさんの 3 人は，リボンと厚紙が足りるかどうかについて考えています。

(1) 24 人分のメダルの材料として，今あるリボン 2000 cm で足りるかどうかを，3 人はそれぞれの式で考えています。

ともみ　80 × 24 = 1920
はるお　2000 ÷ 80 = 25
あかね　2000 ÷ 24 = 83.3 …
ともみ　はるお　あかね　リボンは足ります。

上の 3 人の式は，それぞれ何を調べるための式ですか。
下の **1** から **3** までの中から**1つずつ**選んで，それぞれ番号を書きましょう。

1　今あるリボンから，1 人分のリボンを何本取ることができるか
2　今あるリボンから，1 人あたり何 cm 取ることができるか
3　全員分のリボンを取るのに必要な長さは何 cm か

●出題の趣旨
示された乗法や除法の式の意味を解釈することができるかどうかをみる。

●正答

ともみ　3
はるお　1
あかね　2

（正答率　62.7%）

中学校・国語B（平成28年度）　情報を読む（漆）

1 次の【博物館のちらし（表）】と【博物館のちらし（裏）】を読んで，あとの問いに答えなさい。

【博物館のちらし（表）】

【博物館のちらし（裏）】

「伝統文化」というと遠い存在のように感じられますが，実は今の暮らしの様々なところに息づいています。

「暮らしの中の伝統文化展」の第１期は，「うるしの世界」を取り上げます。私たちの暮らしの中にある漆のよさを実感してみませんか。

うるしの世界
おわんや重箱などに代表される漆製品は，優美なだけでなく，丈夫で長持ちする実用性の高さも兼ね備えており，私たちの暮らしの中で育まれてきたものです。

展示内容（１階展示室）
展示コーナー① 漆製品の歴史
展示コーナー② 原料としての漆の性質
展示コーナー③ 漆製品の製造工程
展示コーナー④ 暮らしの中の漆製品
入口　出口

関連イベント

～漆製品を使ってみよう～
漆の器とスプーンでアイスクリームを味わいます。また，使用後の手入れの仕方も体験できます。漆の器の美しさや手触りのよさなどを感じてみませんか。
日時：開催期間中の土曜日　午後３時ー午後４時
場所：１階特別室
定員：20名（無料・当日受付）

～職人の技を見てみよう～
この道30年の職人による漆塗りの実演を見ることができます。交流する時間もありますので，伝統を受け継ぐ職人としての思いなどを直接聞いてみませんか。
日時：開催期間中の日曜日　午前10時ー午前11時
場所：１階ホール
定員：50名（無料・当日受付）

三　【博物館のちらし（表）】と【博物館のちらし（裏）】には，それぞれどのような表現の工夫がありますか。また，それらにはどのような効果があると思いますか。あなたの考えを，次の条件１から条件３にしたがって書きなさい。なお，読み返して文章を直したいときは，二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件１　「表は，……。裏は，……。」という形で書くこと。
条件２　表現の工夫と，その効果を具体的に書くこと。
条件３　四十字以上，八十字以内で書くこと。

●出題の趣旨
文章の構成や表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことができるかどうかをみる。

●正答例

- 表は，日付を大きく示していて，開催期間が把握しやすい。裏は，「……ませんか」と呼びかける表現を用いていて，親しみがわきやすい。（64字）
- 表は，器のイラストの中に文字が書いてあり，タイトルの印象が強い。裏は，展示内容や関連イベントという項目が設けてあり，伝統文化展の第一期の全体像がよく分かる。（79字）
- 表は，大きな器があり目を引きます。裏は，図があり室内の順路が分かりやすくなっています。（44字）

（正答率　68.4%）

調査結果等の集計・分析・提供

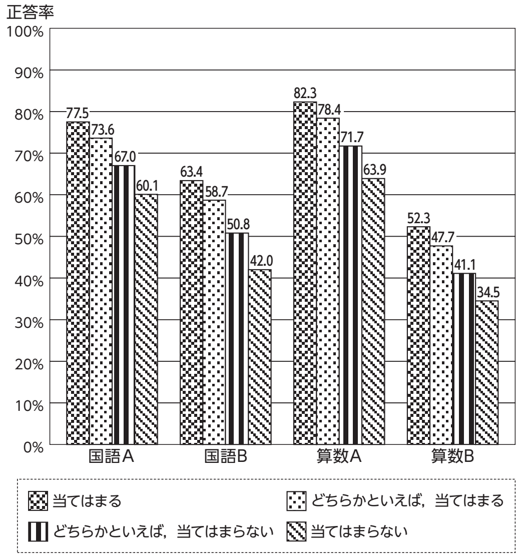
集計・分析

◇国全体，各都道府県，地域の規模等における調査結果を公表

◇児童生徒の学習環境や生活習慣，学校における指導や教育条件の整備状況等と学力の関係を分析，公表

▼公表する調査結果の例

◇5年生までに受けた授業では，先生から示される課題や，学級やグループの中で，自分たちで立てた課題に対して，自ら考え，自分から取り組んでいたと思いますか
（平成28年度調査：小学校）

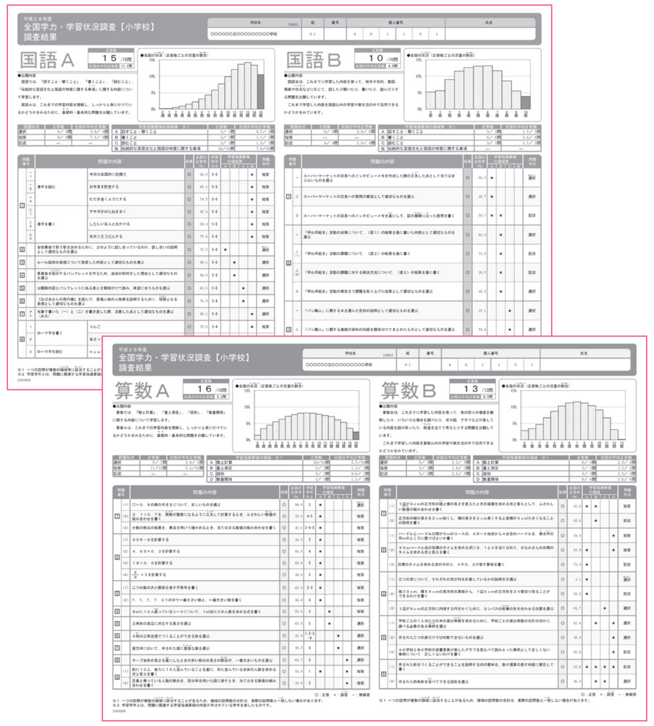


提 供

◇各教育委員会，学校に以下の調査結果を提供

- 児童生徒の正答数分布図
- 設問別正答率・無解答率，類型別解答状況
- 質問紙調査の結果
- 各児童生徒に提供する「個人票」　　など

▼「個人票」のイメージ



保護者に対する調査

調査の目的　家庭状況と児童生徒の学力等の関係について分析するために，児童生徒の家庭における状況，保護者の教育に関する考え方等に関する調査を実施する。

調査対象　無作為に抽出された公立学校において，本体調査を受けた児童生徒の保護者
全国で小学校 1200 校程度，中学校 800 校程度を無作為に抽出

調査実施日　平成29年５月の期間中，調査の対象となった学校が実施可能な期間